

# 動物埴輪から見た古代の儀礼

昭和女子大学 小泉玲子

## 内容

1. 動物埴輪について
2. 埴輪群像の中の動物埴輪
3. 鹿形・猪形・犬形埴輪
4. 動物埴輪からわかること



# 1. 動物埴輪について

## 動物埴輪の種類

馬、牛、鹿、猪、犬、猿、ムササビ、  
鶏、白鳥、鶉、魚

\* 猿、ムササビ、魚はごく少数

馬・・・馬具を装着

犬・・・首輪を装着

鶏・・・止まり木に乗る

→多いようで、限定された種類、人との関わり

# 馬形埴輪



奈良県四条古墳



埼玉県酒卷14号墳

# 馬形埴輪の作り分け(栃木県甲塚古墳)



裸馬



鞍馬



飾り馬

# 牛形埴輪



大阪府今城塚古墳



# 鳥形埴輪

## 鶏形埴輪



大阪府津堂城山古墳

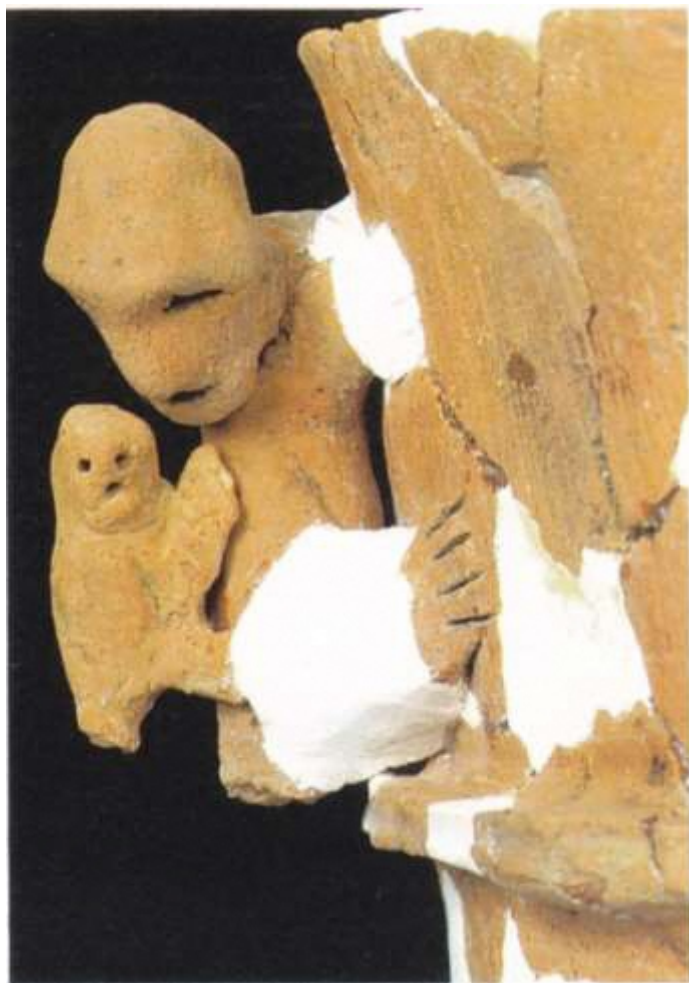
## 水鳥埴輪



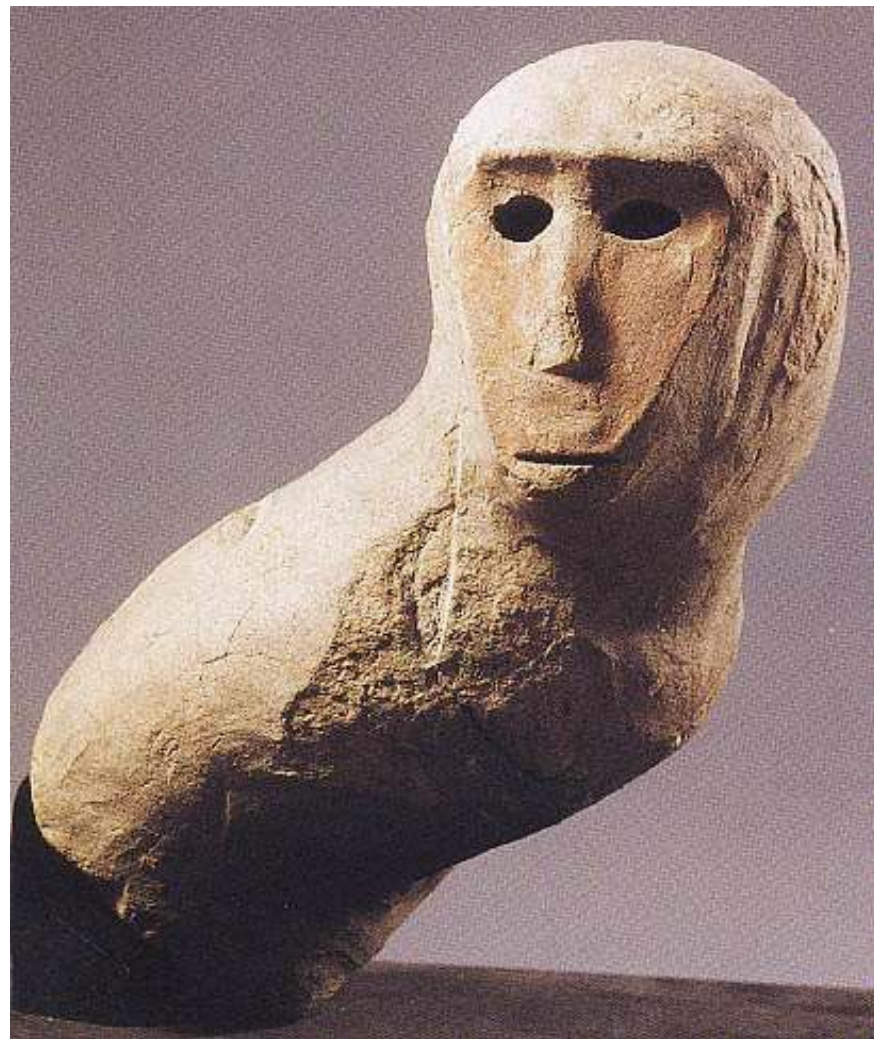
兵庫県池田古墳



# 猿形埴輪



群馬県後二子古墳



茨城県大日塚古墳



# 鵜形埴輪



群馬県保渡田八幡塚

# ムササビ形埴輪



千葉県南羽鳥1号墳



# 動物埴輪の出現

	動物埴輪	動物埴輪以外	主な配置場所、他
3世紀末		器財・家	墳頂
4世紀前半	鶏	器財・家  人物	墳頂、墳丘
4世紀後半	水鳥		墳丘、造出、堤、水際(水鳥)
5世紀前半	馬・犬・猪		造出、堤
	鹿・鶉・牛		
6世紀後半			
7世紀			関東地方

# 動物埴輪の出土事例

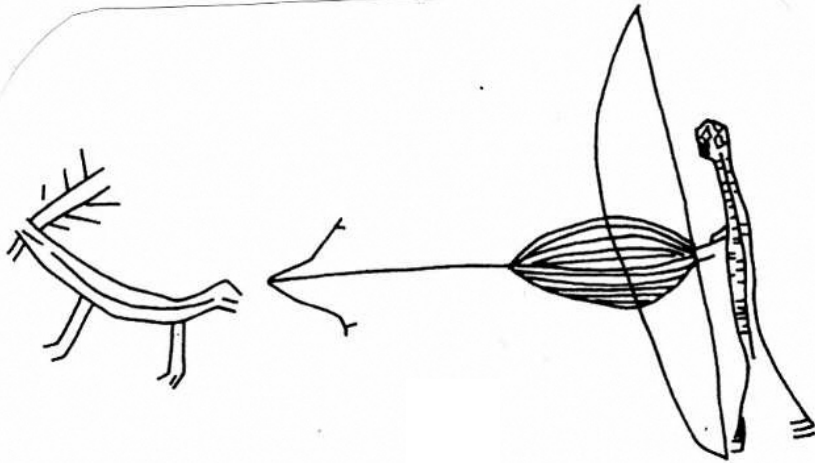
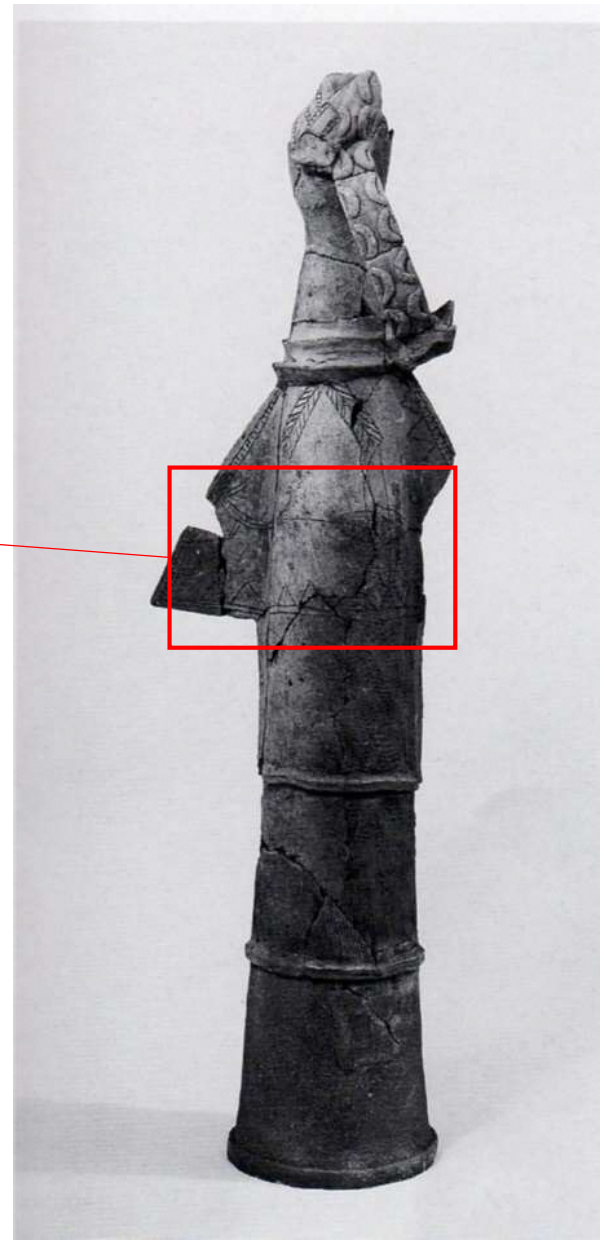
四条1号墳(奈良県橿原市)



# 荒蒔古墳(奈良県天理市)







大刀形埴輪

# 昼神車塚古墳(大阪府高槻市)

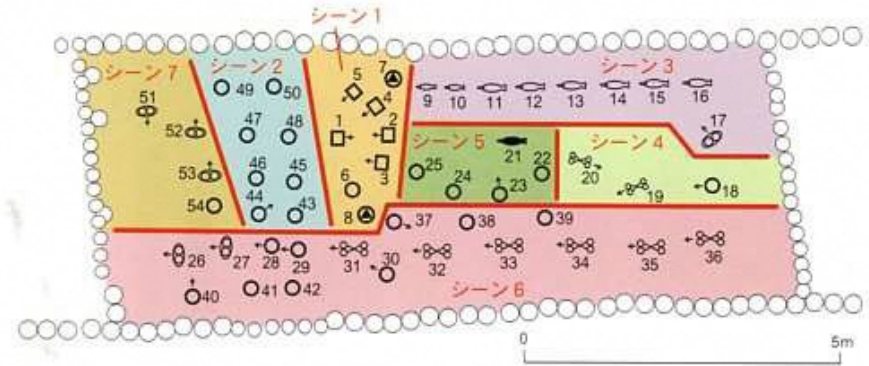






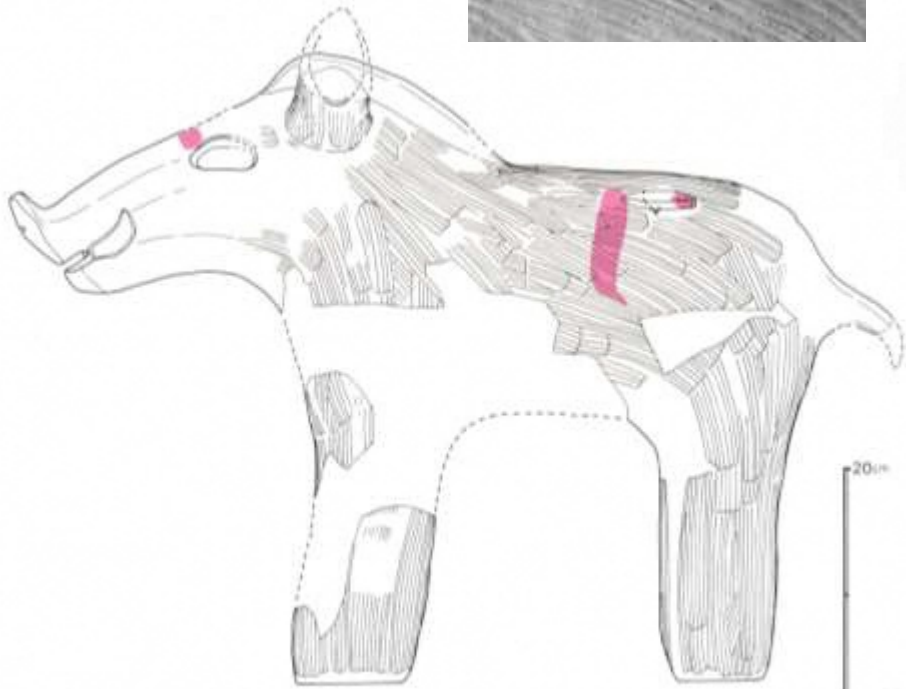


# 保渡田八幡古墳(群馬県渋川市)



# 保渡田Ⅶ遺跡(群馬県渋川市)





第42図 6号溝の形像越輪(17)動物





# 埴輪群像と動物埴輪

埴輪群像とは

**首長権継承儀礼説** 王位を引き継ぐ儀式の様子

**殯説** 死を確認する一連の儀式の様子

**生前顕彰説** 死者の生前の姿を記念する

**供養説** 死者をとむらう儀式

**犠牲説** 死後の世界のために犠牲にされる動物と  
儀式を執行する人々

**死後の近従説** 死者に奉仕し、付き従う家来たち

**来世・他界説** あの世の理想郷の様子

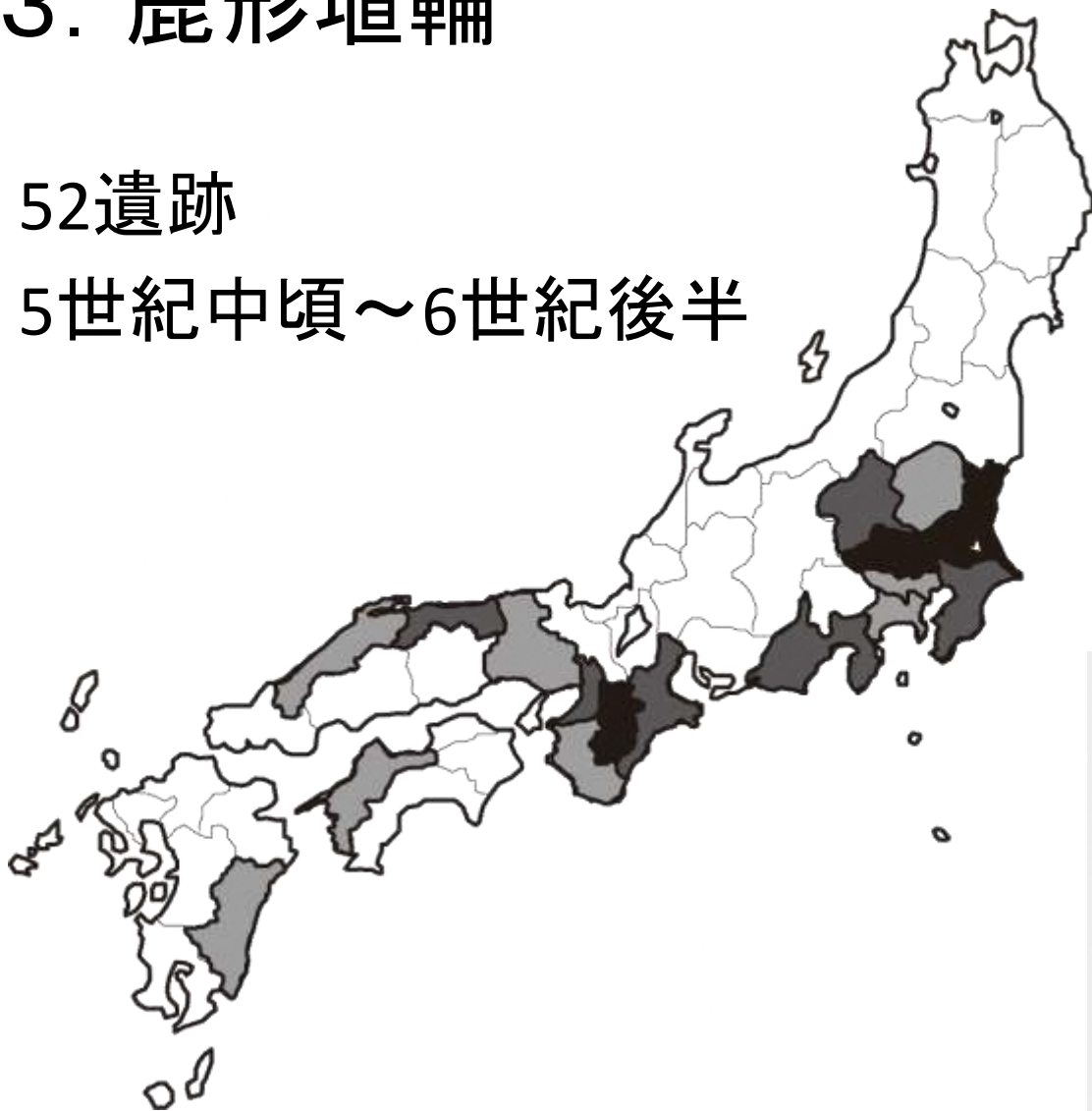
**神宴儀礼説** 神をまつる様々な儀式の様子

動物埴輪から何が言えるか・・・

### 3. 鹿形埴輪

52遺跡

5世紀中頃～6世紀後半



奈良県四条1号墳



島根県平所埴輪窯跡



# 鹿にまつわる信仰

## (1)『日本書紀』から

仁徳天皇38年条 佐伯郡の移郷を主体とした物語

- ・鹿に白鹽をぬり苞苴として貢献した

→食用としての調理法と供物としてが用いられる

応神天皇13年条 日向の髪長媛入内伝承の異伝

- ・海を泳ぎ渡る鹿の記載
- ・地名**鹿子**、**水手**の起源説話
- ・諸県君牛が**有角鹿皮**をまとう様子を記載
- ・天皇の淡路島での狩猟の際の出来事とする

→風土記の中にも鹿にまつわる地名として「カコ」がある

有角鹿皮装束 鹿角は若角(鹿茸)の薬効をふくめ永遠、不老長生の象徴。鹿そのものが靈獣として崇拝されたことを彷彿とさせる(平林2011)



## (2)『播磨国風土記』から

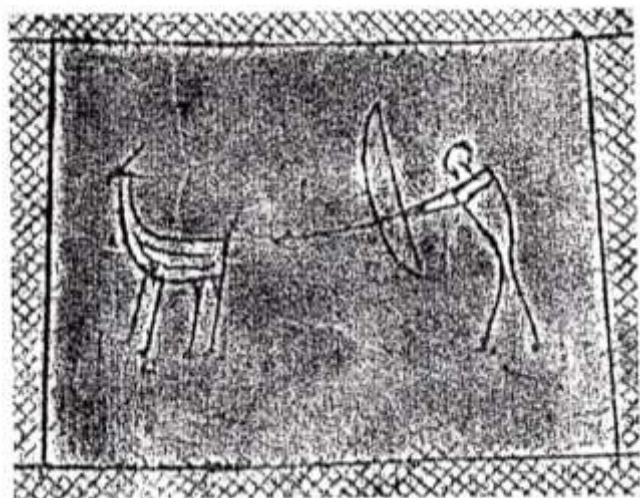
**讃容郡** 大神夫妻が土地の争いをされた時、姫神が生きた鹿の腹を割いて、稲穂をその血に蒔くと、一晩のうちに苗が生え田植えができた。負けた大神は「おまえは、五月夜に植えたんだなあ」と言って他の所に移って行かれた。だから五月夜郡と名付けた。

このほか「加古郡」「飾磨郡」「宍禾郡」の名前の由来としても鹿が登場する

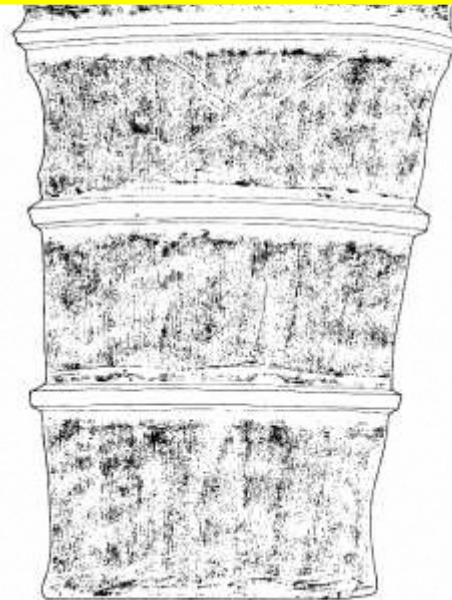
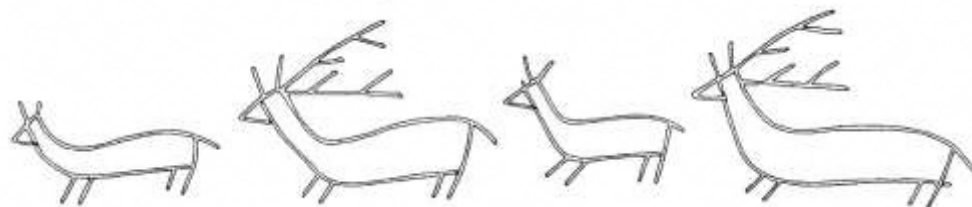
→鹿が特別な存在であったことを示す。

鹿の血と稲作の関連伝承は、鹿が狩りの対象としてだけではなく、農耕と深く結びついた土地の精霊と理解されていたことを物語る(藤田2013)

### (3) 描かれた鹿

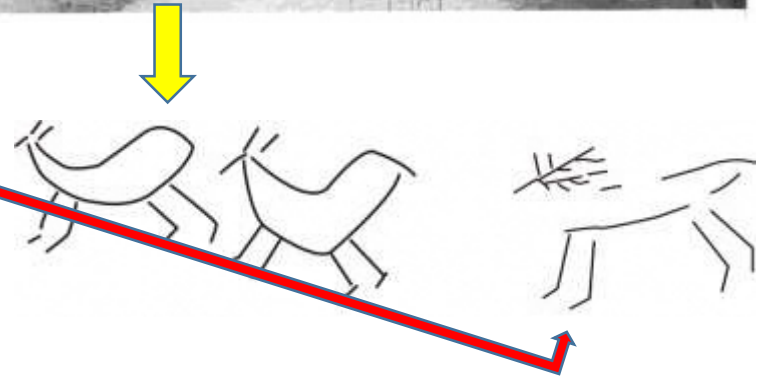
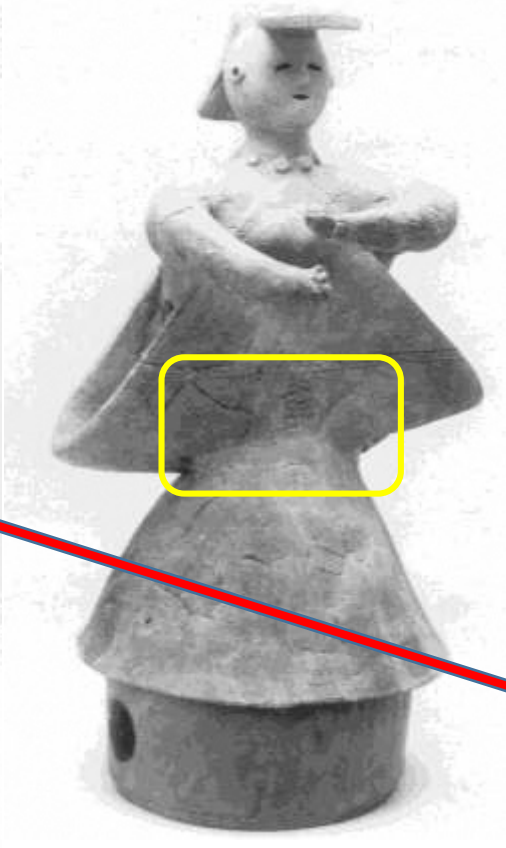
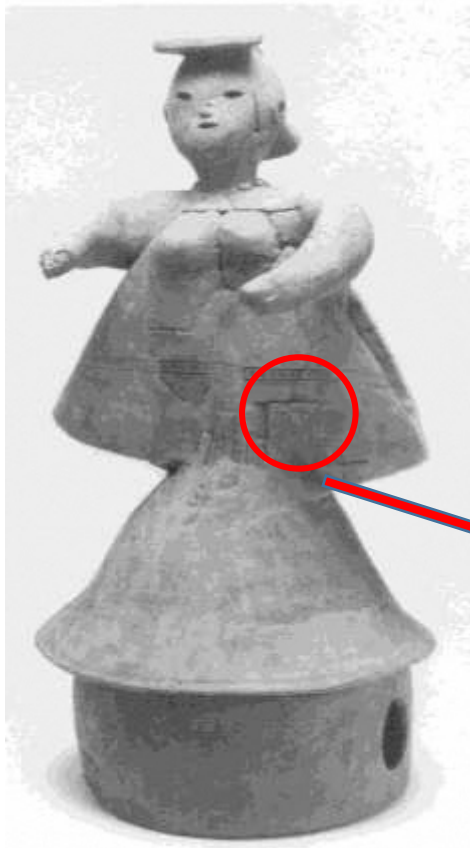


伝香川県出土



兵庫県桜ヶ丘遺跡 5号銅鐸

栃木県塚山古墳



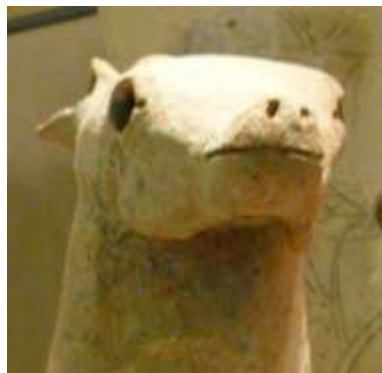
三重県寺谷17号墳巫女埴輪



# 静岡県辺田平1号墳



# 西日本の鹿形埴輪



奈良県四条1号墳



大阪府大賀世2号墳

# 鳥取県の鹿形埴輪



上下211号墳



向山142号墳



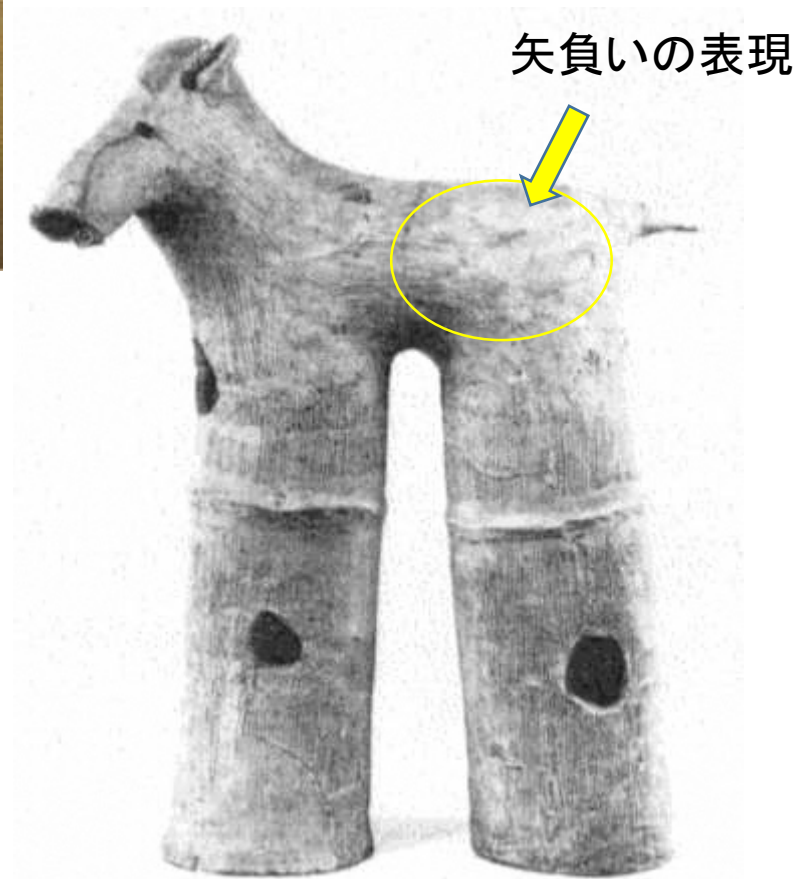
井出挾3号墳



# 東日本の鹿形埴輪



群馬県太子塚古墳



茨城県下横場塚原古墳



茨城県富士見塚1号墳



茨城県西町古墳



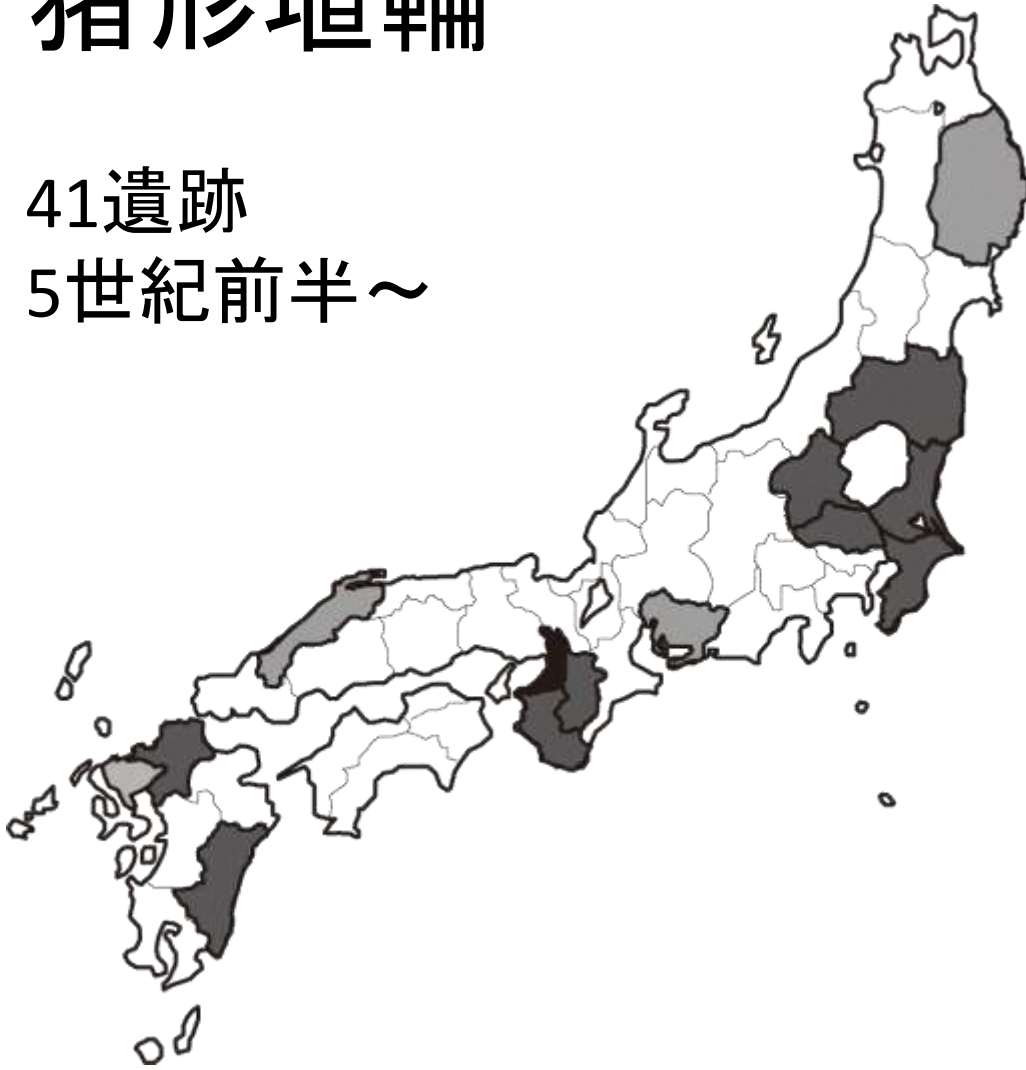
埼玉県女塚2号墳



千葉県  
竜角寺101号墳

# 猪形埴輪

41遺跡  
5世紀前半～



福岡県立山山8号墳



# 猪形埴輪の造形



大阪府青山4号墳



大阪府梶2号墳



奈良県荒蒔古墳



奈良県文代山古墳



福岡県岩戸山古墳石製品

# 犬形埴輪

28例  
5世紀中頃～



百舌鳥梅町窯跡



大阪府梶2号墳

# 犬形埴輪の造形



群馬県剛志天神塚古墳



奈良県荒蒔古墳



大阪府栗塚古墳



# 埴輪で表現されないもの



清戸迫、



福島県清戸迫76号  
横穴墓壁画



動物埴輪からわかることー鹿・猪・犬を中心に

動物埴輪は人物埴輪などと共に群像で配置された  
→当時の人々の死生観をもとにした意図や物語性を反映

鹿にまつわる伝承、信仰

鹿は狩りの対象、作物を荒らす害獣、土地の精霊

鹿形埴輪＝鹿狩りを象徴

→土地を支配することの象徴でもあったか

狩りをしているのは誰か

壁画・・・首長、狩人、馬、鹿、猪、犬 すべて描く  
埴輪の線刻・・・弓矢を強調、犬を描くことはない  
動物埴輪・・・(西日本)犬と猪もしくは鹿のみ

狩人は表現しない

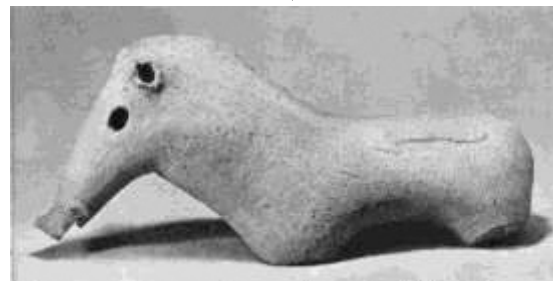
→表現しなくてもイメージできる

(東日本)犬と猪、犬と猪、鹿＋狩人  
矢追の表現

→説明的

観た人が理解できることが必要、西日本では理解。  
埴輪群像は、埋葬された人のためではない？

見返る鹿 何かの気配(狩人?)に振り返る姿  
矢負いの表現 狩りの対象



狩人の存在 弓矢を持つ人物埴輪との共存  
犬、猪、鹿形と共存(犬、猪形のみの場合が多い)  
鹿・猪は狩りの対象、犬は猟犬?

狩りは首長の行う儀礼の一つ

その象徴として鹿形埴輪を置く・・・被葬者の姿  
→見せることに意味